

カナダ・オンタリオ州の学校制度と 大学入学者選抜

東洋英和女学院大学人間科学部 佐藤 智 美
大学入試センター研究開発部 山 村 滋

はじめに

2007年夏に、学術振興会科学研究費補助金により、カナダの中等教育制度と大学入学者選抜について訪問調査する機会を得た。アメリカやイギリス、あるいは、フランスやドイツ等の国々の大学入学者選抜制度は、比較的わが国でも知られているが、カナダのそれについては、ほとんど紹介されていない。そこで、調査対象としたオンタリオ州の学校制度と大学入学者選抜の概要を紹介してみたい。

1. 調査対象としてのカナダ・オンタリオ州

なお、筆者等が、カナダを調査対象として選定したのは、単にカナダの大学入学者選抜制度がほとんどわが国で知られていないからではない。それは以下のような理由による。わが国は、短大を含めた大学進学率が50%を越え、進学率の上からは、アメリカの有名な社会学者、故マーチン・トロウのいう高等教育のユニバーサル段階の時

代を迎えている。このような段階においては、もはや一部の大学を除いては、従来のような入学試験によって、高校と大学との接続関係をつけることが難しくなっている。そこでは従来の選抜（入試選抜）に替わる新しい高大接続の仕方が求められているのである。

フランスの大学入学資格試験制度であるバカロレアやドイツのそれであるアビトゥーアは、大学入学資格試験であると同時に中等教育修了資格試験でもある。中等教育の達成度を測るこれらの試験に合格することが高等教育のための準備の証明ともなっているのである。両国では大学への入学試験は実施されず、中等学校での学習が一定の段階に達成していることで基本的に大学へ入学出来る仕組みをとっている。この両国の制度は、いわば「教育接続」によって高校と大学との接続を、基本的にはスムーズに実現している事例と考えられる。しかしながら、両国の制度は、複線型の中等教育を前提としており、大学に入学するためには、フラ

ンスではリセ、ドイツではギムナジウムという、大学への予備課程として位置付けられている種類の中等学校で学ぶことが前提である。他の種類の中等学校から大学進学の手も完全に閉ざされていないが、上のようなルートが正系であるのに対し、それらのルートは傍系ということになる。

そこで、われわれは、わが国においての「新しい接続（教育接続）」の形態を追究するためには、わが国のように中等教育制度が基本的に単線型で、しかも比較的高い大学進学率の国について、高校と大学の接続形態を調査・研究することによって、貴重な示唆が得られるのではないかと考えたのである。単線型の中等学校制度を有し、入学試験が実施されず、中等学校での達成度に基づいて大学入学が決まるような国、しかも、できれば、中等学校の達成度は、いわば「資格試験」のような公的な試験制度ではなく、基本的に中等学校の「成績」に基づいているような国はないか、ということで可能性を見出した国の一つが、カナダであり、なかんずくオンタリオ州であった。

2. オンタリオ州の学校制度

オンタリオ州の大学入学者選抜について述べる前に、まず、オンタリオ州の学校制度について概観しておこう。連邦制をとるカナダでは、教育行政は

州政府の管轄下にある。したがって、州ごとに教育制度や大学入学者選抜制度が独自に定められている。また、中等学校の成績を基に大学入学者の選抜が行われる仕組みなので、カリキュラムや成績評価システムが重要となる。したがって、これらの点にしても言及することにする。

オンタリオ州はカナダの政治、経済の中心であり、カナダのGDPの41%に貢献している。人口はカナダの州の中で最も多く、約1200万人であり、カナダの人口のほぼ3人に1人はオンタリオ州在住ということになる。

オンタリオ州の学校制度は6歳からの初等教育（8学年まで）、9学年～12学年までの中等教育、その後の高等教育の3段階に分かれている。義務教育は6歳から16歳までである。公用語は英語であるが、第一言語が英語でない子どもにはESL（English as a Second Language）のクラスが設けられている。小学校では、1学年から8学年までの教育を行い、英語、算数、理科、社会、音楽、芸術、体育を学ぶ。また、第二言語の教育がこの段階で行われることが多い。

中等教育は9学年から12学年までである。中等教育では、英語、フランス語、数学、理科、カナダ史、カナダの地理、社会、保健体育、芸術、公民、キャリア・スタディの必修のほかに、

アカデミックかビジネスか技術系の中から選択した科目を学習する。中等教育を修了するとオンタリオ中等教育修了証書 (Ontario Secondary School Diploma, OSSD) が授与される。このOSSDを取得することが高等教育への進学に必要となる。

高等教育は24の専門的カレッジ、3つの農業カレッジ、一つの園芸カレッジ、the Michener Institute for Applied Health Science, 20の大学 (University)、などからなっている。後述するように、大学 (University) に進学するためには、オンタリオ大学志願センター (Ontario Universities' Application Centre, OUAC) に志願し、その後各大学が合否を決定する。わが国のような各大学における入学試験は実施されない。

3. オンタリオ中等教育修了証書 (OSSD)

OSSDを取得するためには、9学年から12学年の間に、18単位を必修科目から、12単位は選択科目から履修することになっている (なお、一つの科目について110時間の授業で1単位である)。これらに加え、10学年において州の統一識字テスト (後述) に合格することがOSSD取得の要件になっている。これは、英語の基礎学力の徹底をはかるためである。英語が第一言語

でない子どもの場合、そのレベルに達した際に、この統一識字テストを受ければよいことになっている。さらに、最低40時間の地域参加活動 (ボランティア活動) が義務づけられている。

中等学校は、単位制をとっている。中等学校9学年と10学年においては、アカデミック、応用、オープン of 3タイプのコースが置かれている。このうちオープンコースはすべての生徒向けであるが、教育全般がより豊かになるような継続教育のための準備となるようなコースである。アカデミックコースは理論的、抽象的な内容に焦点を絞っているコースである。このコースは11学年や12学年になった時に大学進学や大学・カレッジ進学を準備する生徒のためのコースである。応用コースは実践的な応用と具体的な内容に焦点を絞って学習する。このコースは11学年と12学年で職業準備コースに進む生徒を前提としている。なお、応用コース9学年からアカデミック10学年にコース変更を希望する生徒のために、橋渡しとなる教材も用意されている。

次いで、11学年と12学年の生徒は4つのコースの中から進路を選ぶ。4つのコースとは職業準備コース、大学・カレッジ準備コース、カレッジ準備コース、大学準備コースである。まず、職業準備コースは中等教育後、すぐに職業につくため、または見習い生

になるため、または地域内のその他の訓練生になるための準備コースである。このコースでは雇用されるために必要な技能や学習内容を実際に使えるようになることに焦点があてられている。多くの職業準備コースは互いに協力しあい、また労働経験を含んでいるために、生徒は労働の場をじかに経験することができる。大学・カレッジ準備コースは特定の大学やカレッジの入学要件を満たすように計画されており、理論と実践的な応用が重視されている。カレッジ準備コースはほとんどのカレッジのプログラムへの入学要件を満たすように編成されており、実践的な応用と基本的な諸理論を学ぶことが重視されている。さらに、大学準備コースは大学の入学要件を満たすのに必要な知識、技能を提供するコースである。このコースの場合には、物事の理論的な側面を重視し、それらをいかに応用するかについてを学ぶことが中心となる。なお、中等教育後の計画を変更しようとする生徒にはコース変更が可能である。そのような生徒達は、夏季講座などの編入コースで学習する。

なお、中等学校の各科目についての基準は、オンタリオ州が定めているが、それぞれの科目に、「オープン」「アカデミック」「応用」「大学」「大学・カレッジ」「カレッジ」「職業準備」の区別がなされている。大学進学希望者は、

11学年・12学年で「大学」「大学・カレッジ」の科目を履修する必要がある。

また、生徒は先にも述べたように10学年で州の統一的な英語の読み書き能力テストである「オンタリオ中等学校識字テスト (Ontario Secondary School Literacy Test)」を受ける。中等教育を修了するためにはこのテストに合格しなければならない。このテストは、9学年までの読み書き能力に関する目標到達度に基づいて作成されており、毎年2回、州内の学校で一斉に実施される。結果は合否で判定され (再受験可)、OSSDにも記載される。

4. 成績評価とレポート・カード

オンタリオ州では、州統一のレポート・カードを導入しており、これによって児童・生徒の成績や学校での状況を親・保護者に知らせている。出席などの記述もあるが、成績評価に関してはカリキュラム達成度と学習スキル発達度の2つから構成されている。まず、カリキュラム達成度は、各科目に関して州統一カリキュラムでその学年の児童や生徒がどの程度の達成度であるかを示すものである。評価は、1学年から6学年までは、A B C Dで示される。7学年と8学年では、パーセントが用いられる。このような評価は州の規定する達成度の4つのレベルに基づいている。Aおよび80-100%はレベル4、

Bおよび70-79%はレベル3, Cおよび60-69%はレベル2, Dおよび50-59%はレベル1である。Rあるいは50%未満は州統一カリキュラムで要求されている水準に達していないことを示す。7学年と8学年の場合には、その学年での平均値も記載される。各科目の評価には優れている点、不十分な点などについてのコメント欄も設けられている。

学習スキル発達度とは、学習を効果的に進めるための技能・能力をどの程度に身につけているかの評価である。他に頼らないで学習すること、情報の利活用、授業への参加、率先してやる力、宿題を終える、協調性、問題解決、対立の解決、学習目標の設定の9項目から成っている。評価はE(優), G(良), S(可), N(要改善)の4段階でなされる。これは科目ごとではなく、科目横断的に評価される。

中等学校では、レポート・カードの内容は小学校と同じく、カリキュラム達成度と学習スキル発達度に分けられる。カリキュラム達成度は科目ごとにパーセントで評価される。小学校の場合と同じように、優れている点等についてのコメント欄も設けられている。また、各科目の成績分布の中央値も記すようになっている。中等学校の場合、学習スキル発達度についても科目ごとに評価される。学習スキルの評価は小

学校と同様に4段階でなされる。中等学校で評価される学習スキルの項目は、他に頼らないで学習する、チームワーク、計画性、学習の習慣・宿題をする、率先してやる力の5項目である。

5. 中等学校から大学へ

大学への志願は、OUAC(オンタリオ大学志願センター)を通して行う。OUACとはオンタリオ州の大学への入学志願書を処理することを主な機能とする機関である(OUACを通して選抜を行っているのは、Royal Military Collegeを除く19大学である)。OUACは1971年に設立されているから、すでに30年以上の歴史を持っていることになる。

OUACは個人的な入学に関するデータに加え、入学者を決定できるように、大学が要求している他の情報をも集め、処理している。例えば、学業成績、卒業証書、エッセイ、推薦状などの情報である。大学は、プログラムごとにこれらの資料等を用いて選抜を行う。最も重要なのは、中等教育段階での学業成績である。志願料は、カナダ国内居住者であれば100カナダドル、カナダ以外に居住であれば110カナダドルである。この志願料で、3つの大学あるいはプログラムまで志願できる。それ以上に志願したい場合には、一つの大学あるいはプログラムにつき、33カ

ナダドル追加される。現在95%の志願は、オンラインで行われている。OUACは可否の決定にはかわらず、各大学が決定する。多くの大学の場合、可否は、直接、志願者にオンラインで送られ、志願者はオンラインで入学意志を送る。

ここで、カナダでも有数の大学であるトロント大学(1827年設立)について、その志願から合格までの過程をみてみよう。以下は、オンタリオ州の中等学校に在籍する生徒が志願する場合である。

トロント大学のプログラム(学士課程)に志願するには、以下の要件を満たす必要がある。1) OSSDを取得(見込み)であること。2) 11・12学年において「大学準備コース」の「英語」の他に、大学入学志願として認められる「大学準備コース」または「大学・カレッジ準備コース」の5つの科目を履修すること。3) 志望するコース・プログラムに要求される科目要件を満たしていること。4) 英語の能力の証明(必要な場合のみ)。5) 他の教育行政管轄地域からのアカデミック・ドキュメント(必要な場合のみ)。なお、これらの要件は、最低限のものであり、他の要件が必要な場合もある。上記3)に関しては、たとえばセント・ジョージ・キャンパス(St. George Campus)にある「教養学部」

において、英語以外は科目指定が行われないプログラムから、3科目まで指定があるものまで様々である。前者の例としては、「社会学」プログラム、「政治学」プログラムなどが指摘できる。後者の事例としては、「生物学」の場合、「上級関数と入門微積分」、「生物学」および「化学」の3科目が指定科目であり、また、「幾何学と離散数学」の履修が奨励されている。また「フランス語とフランス文学」プログラムの場合、「フランス語」が指定科目である。いわゆる理系のプログラムにおいて、指定科目が多くなる傾向がある。

オンタリオ州における志願から入学までの一般的な流れは以下のようである(図)。志願は、大学新年度の始まる前年の秋、つまり12年生の生徒にとっては最終学年が始まる頃から、受付が始まる。そして、翌年の4月までが受付期間(志願するプログラムによって締め切り日は異なる)である。これは、前述のOUACに申し込むことになる。

可否の決定は5月下旬頃までに各大学によってなされる。そして、可否は、主に12学年における、大学進学のための科目として認定されている6科目の中間あるいは最終成績の平均点(パーセント表示)による。ただし、11学年の成績が考慮される場合もある。また、

中間成績に基づいて下された合格は条件付合格であり、最終成績が条件に合ったものであるかどうか、夏にチェックされる。

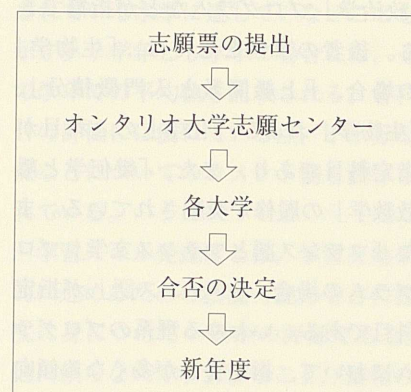


図 志願—入学の流れ

ちなみにいくつかの大学を例として、科目要件と合格となる成績の水準についてみてみよう。例えば、トロント大学の「化学工学」プログラムを志望する場合、6つの「大学準備コース」または「大学・カレッジ準備コース」の科目のなかに、「大学準備コース」の「英語」、 「大学準備コース」の「上級関数と入門微積分」「化学」「物理」とさらに「大学準備コース」の「幾何学」「データ管理の数学」「生物」「地球空間科学」のうちから1科目を選んで履修しておくことが必要である。「化学工学」に入学許可を得るためには成績の平均が最低でも80%台でなければならない。また、同大学の「教養

学部」を希望する場合には、「英語」を含んだ6つの「大学準備コース」または「大学・カレッジ準備コース」の科目履修が必要であるが、特に「英語」が重要視されている。中でも「経済」を希望する場合には、「大学準備コース」の「上級関数と入門微積分」と他の「大学準備コース」の「数学」の中から1科目履修しておく必要がある。「教養学部」に合格となる成績は高めの70%台とされている。トロント大学では、学部やプログラムにもよるが、2月下旬から5月下旬にかけて条件付きの合格が出ることになっている。

また、ヨーク大学の場合には、例えば、「心理学」のプログラムに入学を希望するのであれば、「大学準備コース」の「英語」を含んだ6つの「大学準備コース」か「大学・カレッジ準備コース」科目が必要である。「英語」以外の5科目中には、「大学準備コース」の数学を1科目（特に「上級関数と入門微積分」を履修することが奨励されている）が必要であり、また「大学準備コース」の「化学」か「物理」のどちらかも必要とされている。さらに、「カナダおよび世界」「古典と現代言語」「フランス語」「人文・社会科学、もしくは、先住民学」のうちから一つを学んでおくことも要求されている。「心理学」に入学するためには成績の平均が最低でも70%台半ばには達して

いなければならない。ヨーク大学でも特に難関とされている「ビジネススクール」の場合には、6つの「大学準備コース」か「大学・カレッジ準備コース」科目中に、「大学準備コース」の「英語」と「上級関数と入門微積分」の履修と「カナダおよび世界」「古典と現代言語」「フランス語」「人文・社会科学、もしくは、先住民学」のうちから一つを履修しておかなければならないとされている。さらに適性などに関する情報を送ることが必要とされている。ビジネススクールへの入学許可を得るためには、成績の平均が最低でも低めの90%台でなければならず、かつ、70%未満の科目があってはならない。

さらに、ゲルフ大学の「Bachelor of Arts」プログラムに入学を志望する場合には、「大学準備コース」の「英語」のほかに、5つの「大学準備コース」または「大学・カレッジ準備コース」科目の履修が必要である。その中に、「数学」か「フランス語」（または第2言語）を履修しておいた方が望ましいとされている。また、「環境工学」への入学志望であれば、「大学準備コース」の「英語」と「上級関数と入門微積分」、 「大学準備コース」の「生物」「化学」「物理」の中から2科目、他の「大学準備コース」か「大学・カレッジ準備コース」の科目から2科目を履

修しておかなければならない。特に「大学準備コース」の「化学」と「物理」の履修が奨励されている。ゲルフ大学では、2月から入学者を決定しはじめるが、成績が75%以上の者はすべて合格の対象となる。以上は、オンタリオ州の大学の中のいくつかの例であるが、志望する大学やプログラムに合格するためには成績の平均が、最低でも70%は必要となっている。

なお、カナダの大学入学者選抜制度で特徴的なのは、合格者を一度に決定するのではなく、一定程度、成績の高い志願者にまず合格を出し、その後、入学する意思を確認しながら、新たな合格者を決定していくことが、少なくとも今回調査したオンタリオ州およびブリティッシュ・コロンビア州の大学においては一般的であるということである。そのため、最終的に入学者が確定するのは新年度が始まる直前になる場合もあるという。また、中等学校の成績をもとに選抜を行う場合、日本的な感覚で言えば、学校間の学力格差および成績評価の同等性が問題になるであろうが、オンタリオ州そしてブリティッシュ・コロンビア州においても、特に成績の調整は行っていないということであった。成績評価についての統一基準があり、州政府は、少なくとも建前としては「成績評価に学校間の差異はない」としている。大学もそれに従

っているのである。

おわりに

以上、カナダの学校制度と大学入学者選抜の概要について述べてきた。特に大学入学者選抜との関わりからは以下のような特徴を指摘できる。①高校は、ドイツやフランスのような学校種別方式（分岐型）をとってはならず、高校内部でのコース別の進路分化の方式をとっている。②個別の大学入試はなく、基本的に高校の成績に基づいて選抜が行われる。③大学への志願に関する事務は、一括して、オンタリオ大学志願センター（OUAC）が行っている。この点は、大学志願事務の効率化をはかる上で、効果的であると思われる。

なお、中等学校内でのコース分化を図る制度であるならば、それは、どのような理念に基づいているのか、また、進路分化のための指導はどのようになされているのか、コース間の移動は、実施上どのように行われるのか、等についての調査研究が必要となる。さらに、高校成績の評価のために、州内の共通的な評価基準やその他の仕組みを分析することも、今後の重要な課題である。

【参考・引用文献】

荒井克弘・橋本昭彦（編）（2005）『高校と大学の接続—入試選抜から教育

接続へ—』玉川大学出版会。

小林順子・関口礼子・浪田克之介・小川洋・溝上智恵子（編）（2003）『21世紀にはばたくカナダの教育』東信堂。

Ministry of Education (1999) *Guide to the Provincial Report Card: Grades 9-12*, Ministry of Education.

Ministry of Education (2000) *Course Descriptions and Prerequisites: The Ontario Curriculum Grades 9 to 12*, Ministry of Education.

Ministry of Education and Training (1999) *Ontario Secondary Schools Grades 9 to 12*, Ministry of Education and Training.

Ministry of Education and Training (n.d.) *Ontario Secondary Schools Grades 9 to 12: Program and diploma requirements: An overview*, Ministry of Education and Training.

Ontario Universities' Application Centre (2006) *Info*, Issue 71 Fall 2006, OUAC.

University of Guelph (n.d.) *Admissions 2007*, University of Guelph.

University of Toronto (n.d.) *University of Toronto: 2007-2008*, University of Toronto.

York University (n.d.) *Enter Here: Admissions 07-08*, York University.